

品質かわら版

2023.01

品質管理課の住友です。

今回は、家庭で使われる洗剤の表記についてお伝えしたいと思います。
家庭用品 品質表示法により、その成分表示が義務付けられています。
そして製品には、それに基づいた成分表示が必ず記載されています。
必ず目を通して、汚れに適しているか、その材質に使用可能か、判断することが大切です。
使用前に表示をよく読んでおきましょう。

このように洗剤容器の裏面に記載されています。
洗剤を使用する前に、必ず誰でも読んだ事がある表示です。
では、家庭用品 品質表示法に基づく表示とはどのような事なのでしょうか。



家庭用品 品質表示法に基づく表示

- ①品名：家庭用食器洗浄用洗剤
- ②成分：界面活性剤 1%ポリオキシエチレンアルキルエーテル…
- ③液性：アルカリ性
- ④用途：食器用洗剤・調理用器具…
- ⑤容量：400m l
- ⑥使用上の目安：水 1 L に対して 2.5m L
- ⑦使用上の注意：用途以外に使用しない…
- ⑧応急処置：万が一飲み込んだ場合は水を飲ませるなどの処置をする…

このよう事項が記載されています。

ラベルの見かた

では、ラベルの見かたを一つずつ確認していきましょう。

- ①品名：洗剤か洗浄剤かの確認を。合成洗剤は界面活性剤の働きで汚れを落とし、洗浄剤は酸やアルカリの力によって汚れを落とします。
- ②成分：界面活性剤については、カッコ表記で総合有率及び種類の名称を表示。これ以外にも主な働きをする成分については必要に応じて表示が義務付けられています。

③液性：液性は汚れ落としのポイント。

酸性・弱酸性・中性・弱アルカリ性・アルカリ性の5段階に分かれ、酸性やアルカリ性が高くなるほど強く作用します。

④用途：必ず確認しましょう。

⑤容量：容器などの重さを除いた量。

⑥使用上の目安：洗剤は適正量を使うことが大切です。洗剤の効力を有効に使用できる量です。

⑦使用上の注意：重要事項が書かれています。必ず目を通してください。

⑧応急処置：万が一の対処法が記載されています。

混ぜるな危険について

「混ぜるな危険」と表示されている、「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」は十分注意してください。混ぜると有毒な塩素ガスが発生して、とても危険です。

洗剤は混ぜて使用しない

原則として、2種類以上の洗剤を混ぜたり、前後に続けて使用しないようにしましょう。酸性とアルカリ性の洗剤を一緒に使うと、中和作用を起こして効果が減少してします。特に、「混ぜるな危険」と表示されている、「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」が混ぜると有毒な塩素ガスが発生し、最悪なケースでは死に至ります。使用中はしっかり換気をして、ゴム手袋を着用しましょう。

